

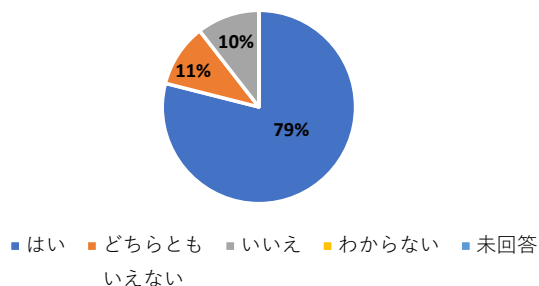
保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名	子どもデイサービスセンター杜の家なりた	対象年度	2024年度
------	---------------------	------	--------

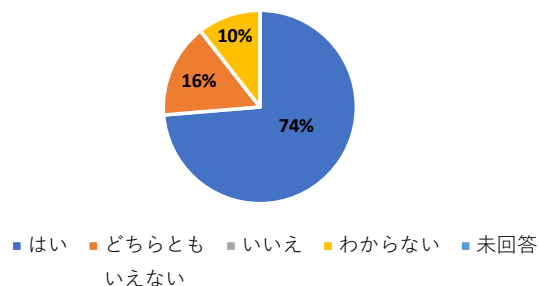
		チェック項目	ご本人・ご家族のご意見、ご要望等	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	お子様の活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか	部屋に車椅子が数台入るとスペースは十分確保されてるとはいえない。 雨の日は活動スペースがせまい。	ご意見のとおり子どもデイサービスルームに車椅子等が数台入るとスペースが手狭になることがあります。但し、ご利用中ずっと子どもデイサービスルームにいたことはなく、人数や学齢に合わせて保育所や高齢者のデイサービスや特養棟で過ごすこともあります。雨の日はシタカタ工作室を使って身体を動かしたりなど活動できる場を確保しております。
	2	職員の体制やお子様への関わり方について満足していますか	キッチンのスポンジをかじったとの報告あり。衛生面なども考慮し子供の手が届かない配置を希望します。	ご心配をおかけして申し訳ございません。基本的にキッチンには職員のみが入るようにしていますが、危険物などは手の届かないところに置くなど管理を徹底します。
	3	事業所の生活空間や設備等に対して満足していますか	記載なし。	
適切な支援の提供	4	お子様のことを十分に理解し、特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると感じられていますか	毎月、専門的支援加算されているが何をしているか不明	「専門的支援体制加算」とは、作業療法士等による支援が必要な児童に対する支援及びその児童の家族等に対して障害児への関わり方に関する助言を行う等の専門的な支援の強化を図るため一定以上の職員配置をすることとなっており、当事業所において基準を満たして当該加算を算定させていただいております。個別に行った支援内容の詳細については、ケアコラボの記録やモニタリング面談時にお伝えしてまいります。
	5	事業所が公表している支援プログラム(別紙)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか	記載なし。	
	6	お子様と保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されていますか	記載なし。	
	7	放課後等デイサービス計画には、「本人支援」、「家族支援」、「(将来の進路等への)移行支援」も含まれており、計画にそった支援が行われていると思いますか	高校卒業後も相談支援事業所として支援をお願いしたい旨伝えているがその回答がない。	ご相談をお受けしていて回答ができておらず申し訳ありません。同施設内にある「居宅介護支援センター杜の家なりた」において、障害児・者の相談支援を行っており、高校卒業後に相談支援のご要望があることを早急に確認をいたしまして、ご相談に応じてまいります。
	8	お子様に合わせた活動プログラムが提供されていると感じていますか	記載なし。	
	9	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のないお子様と活動する機会があると感じますか	記載なし。	
	10	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか また、放課後等デイサービス計画に基づき、支援内容の説明がなされていますか	記載なし。	
	11	事業所において家族に対する支援や家族等も参加できる行事や研修会等の開催、情報提供の機会があると思いますか	記載なし。	

		チェック項目	ご本人・ご家族のご意見、ご要望等	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	12	日頃からお子様の状況を保護者へ伝え合い、お子様の健康や発達の状況、課題について共通理解ができていますか	記載なし。	
	13	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援を受けられ、事業所の職員から共感的に支援をされていると感じますか	記載なし。	
	14	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の交流により家族への支援がされているか また、きょうだい同士の交流により、きょうだいへの支援がなされていますか	必要を感じていない。	ご意見ありがとうございます。杜の家なりたでは父母会や保護者会というものを特別設けておりませんが、ご家族様にも夏祭りなど行事に参加していただくことで、交流を持っていただけるようにしております。
	15	お子様や家族からの相談や申入れへの対応の体制が整備されており、周知・説明がされていて、迅速に対応できていますか	記載なし。	
	16	お子様や保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされていますか	記載なし。	
	17	定期的に通信やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制の情報や業務に関する自己評価の結果をお子様や保護者に対して発信していますか	ケアコラボのみしか分からない。 利用回数が少ないとイベントの案内が届かない時があるのでメールなど活用してほしい。	ケアコラボではご利用の様子やケアの内容等について記録をして閲覧できるようにしています。 イベントの案内ができておらず申し訳ありません。手紙で案内しておりますが余裕を持って出すように、期間が迫っている場合はケアコラボ等で案内するなど改善してまいります。
	18	個人情報の取り扱いに十分注意されていると感じますか	記載なし。	
非常時等の対応	19	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか また、発生を想定した訓練が実施されていますか	記載なし。	
満足度	20	お子様は安心感を持って、通所を楽しみにしていますか	全く嫌がることなく、自分で杜の家さんの送迎車に乗り込み、帰りも楽しそうに笑って帰ってくるので、通所するのが楽しいのだと思います。	ご利用を楽しみにしていただきありがとうございます。今後とも子どもデイサービス杜の家なりたが、お子様の楽しみや安心できる場になるようケアに努めてまいります。
	21	事業所の支援に満足していますか	息子が楽しそうに通っていたり、息子の様子や状態に合わせていつもご対応していただいているので、親子共々、大変満足しております。いつもありがとうございます。 十分とはいえないが概ね満足しています 連絡帳の確認（事業所側の）が周知徹底されていないことがあるようです。ルーティン化されていないのかも？ 持ち物の忘れ物の連絡がもう少し早めにほしい。	支援についてご満足いただきありがとうございます。今後ともお子様の様子や状態等に合わせた支援を行っていくよう努めてまいります。 連絡帳の確認不足でご迷惑をおかけして申し訳ありません。来所時に連絡帳を確認するよう徹底してまいります。 持ち物の忘れ物があること、さらに連絡が遅くなってしまうご迷惑をおかけして申し訳ありません。忘れ物があつたら当日に電話連絡し、基本はその日にお渡しすることになっておりますので、徹底して行ってまいります。

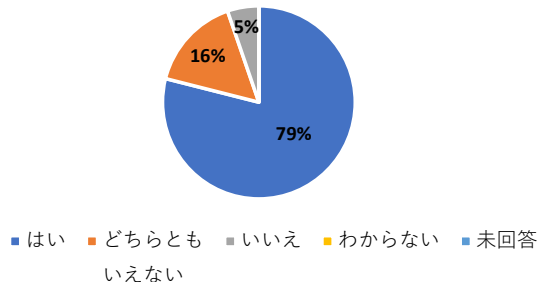
1. お子様の活動等のスペースが十分に確保
されていると思いますか



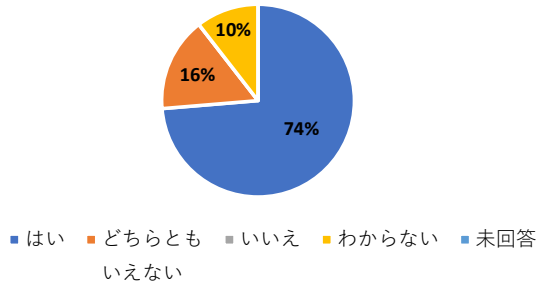
2. 職員の体制やお子様への関わり方について
満足していますか



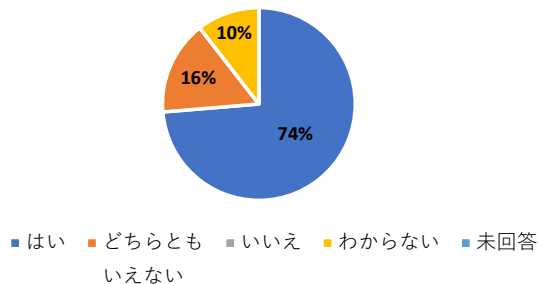
3. 事業所の生活空間や設備等に対して
満足していますか



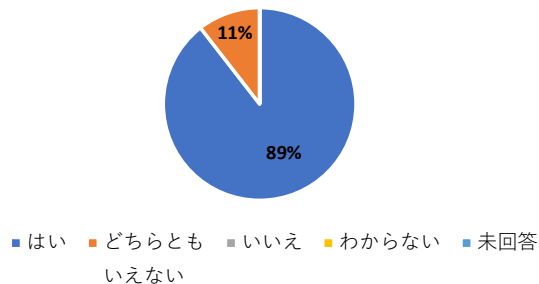
4. お子様のことを十分に理解し、特性等に応じた専門性のあ
る支援が受けられていると感じられていますか



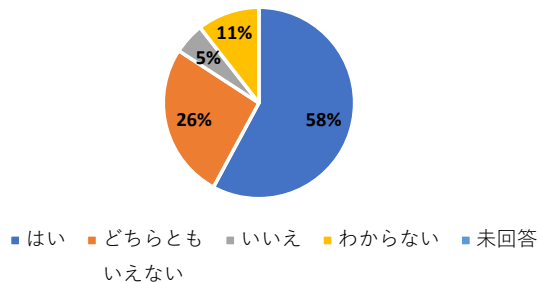
5. 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供す
る支援内容と合っていると思いますか



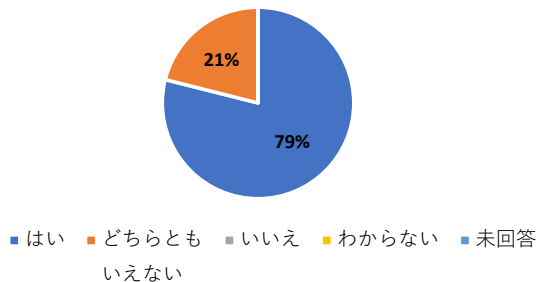
6. お子様と保護者のニーズや課題が客観的に分析された
上で、放課後等デイサービス計画が作成されていますか



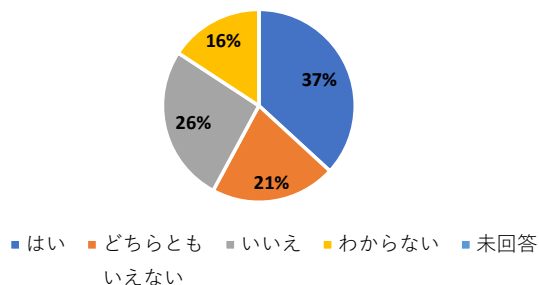
7. お子様と保護者のニーズや課題が客観的に分析された
上で、放課後等デイサービス計画が作成されていますか



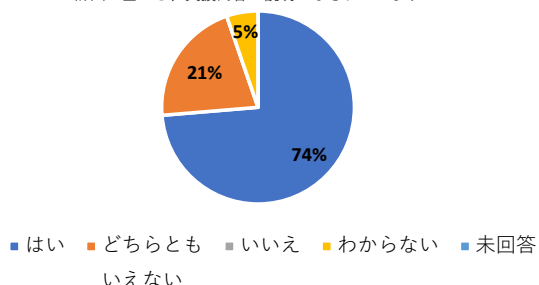
8. お子様に合わせた活動プログラムが提供されて
いると感じていますか



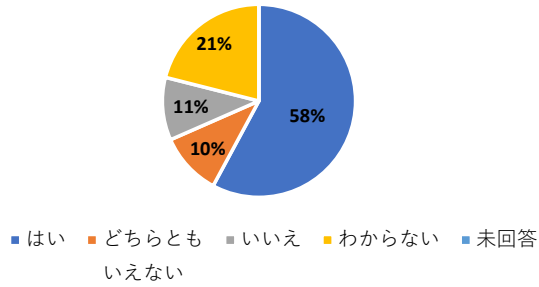
9. 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害の
ないお子様と活動する機会があると感じますか



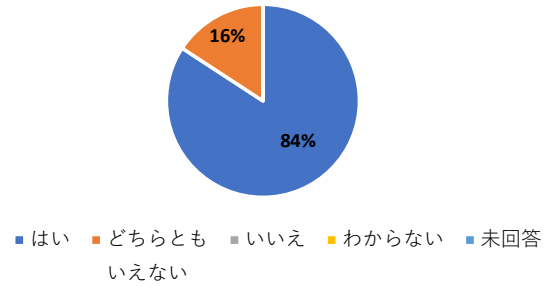
10. 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担
等について丁寧な説明がありましたかまた、放課後等デイサービス
計画に基づき、支援内容の説明がなされていますか



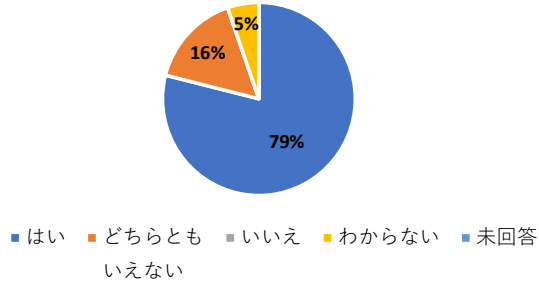
11.事業所において家族に対する支援や家族等も参加できる
行事や研修会等の開催、情報提供の機会があると思いますか



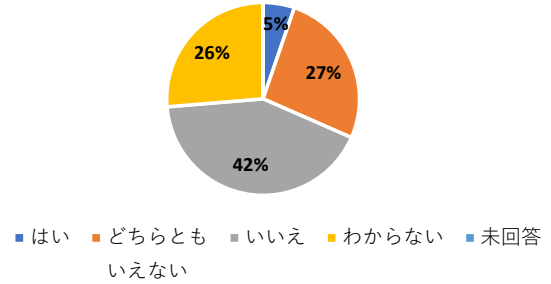
12.日頃からお子様の状況を保護者へ伝え合い、お子様の健康や
発達状況、課題について共通理解ができていますか



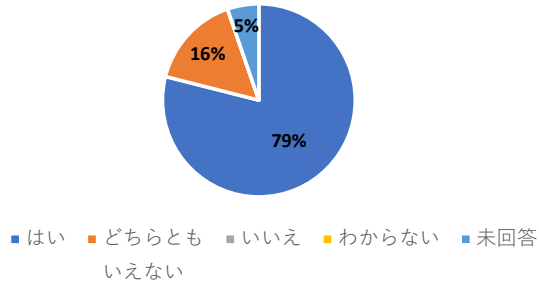
13.定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援を受けられ、
事業所の職員から共感的に支援をされていると感じますか



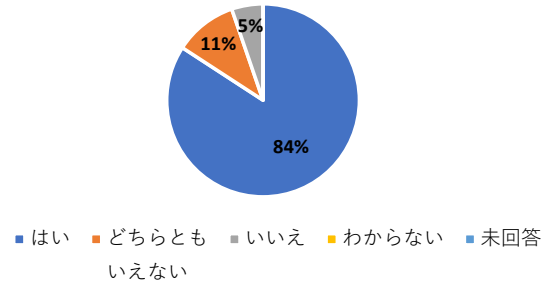
14.父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の交
流により家族への支援がされているか。また、きょうだい同士の交流に
より、きょうだいへの支援がなされていますか



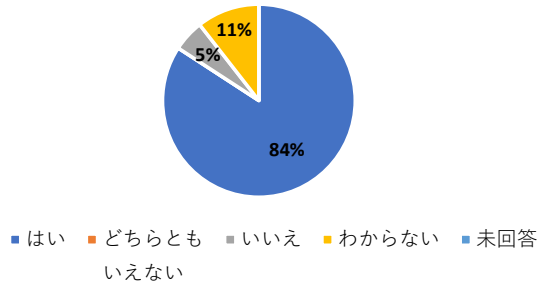
15.お子様や家族からの相談や申入れへの対応の体制が整備されてお
り、周知・説明がされていて、迅速に対応できていますか



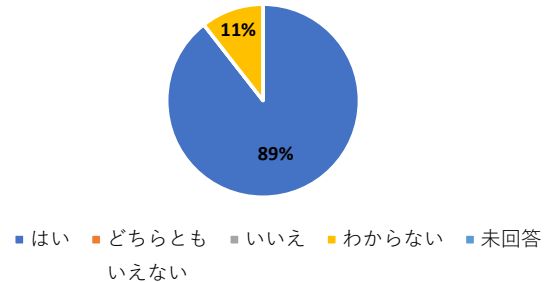
16.お子様や保護者との意思疎通や情報伝達のための
配慮がなされていますか



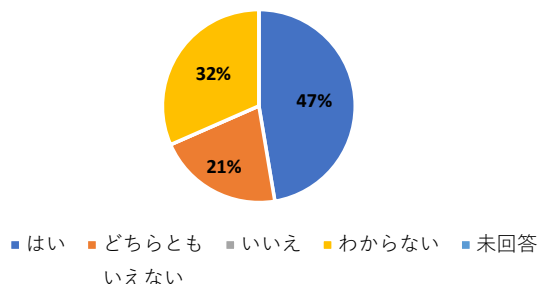
17.定期的に通信やホームページ等で、活動概要や行事予定、連
絡体制の情報や業務に関する自己評価の結果をお子様や保護者
に対して発信していますか



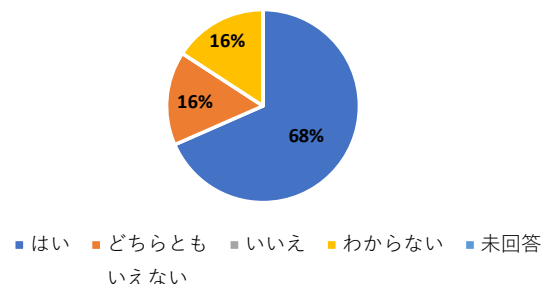
18.個人情報の取り扱いに十分注意されていると
感じますか



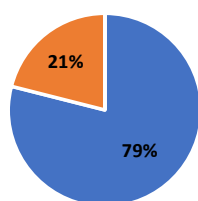
19.事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、感染
症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていま
すか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか



20.お子様は安心感を持って、通所を楽しみに
していますか



21.事業所の支援に満足していますか



■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ ■ わからない ■ 未回答

事業所における自己評価結果

事業所名		対象年度	
子どもデイサービスセンター杜の家なりた		2024年度	
	チェック項目	意見、工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点等	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員に対して発達支援室等スペースが適切であるか	他害、パニック、自傷行為、行動障害を持つ児童が同時に利用するため、安全な場所やクールダウンスペースがあるとよい。 2箇所ある柱が危険、実際にぶつかけたり自傷行為のある児童はぶつかりに行く。着替え等のプライバシースペースがない。 基準は満たしているが、見守りの際の死角が多い。また、利用者の特性に合わせたスペースの棲み分けが難しい。	発達支援室のスペースのみではなく、保育所や多目的スペースなど施設内を有効に活用して、適宜、必要な支援を行えるようにする。 危険箇所を点検し、保護力バーをつけるなど必要な対策を行う。
	2 利用定員やお子様の状態等に対して、職員の配置数は適切であるか	ご利用者様の人数や特性等に合わせた職員配置が必要。特に閉校日の各時間帯での柔軟な配置を工夫すること。 定員だけでなく、利用者の特性に配慮した支援や安全な見守りを行うために配置する職員数が少ないように思う。 重度のご利用者、行動範囲が広いご利用者、対一でつかなければならないご利用者が同時に複数名利用されているので見守りが困難。連携をしても児童同士の行動範囲が広いと見守りきれない。 対一の児童の利用が多い日など、必要に応じて人員配置が出来るが良いです。	職員は、その日の利用人数や障害特性等に合わせて配置を行っている。 時間帯により利用者が屋内外に分かれると、職員配置の偏りが出てしまい、見守り等が十分に行えない場合もある。 支援開始前に、職員間でシミュレーションを行い、適切な支援が行えるよう、職員配置を工夫していく。
	3 事業所の生活空間や設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか	手すりが多く、歩行が難しいご利用者にとってどこでも掴まれる。 小上がりなど歩行が不安定な利用者にとってリスクとなるものがある。視覚支援のカードを壁に貼り付けるなど視覚的に分かりやすい情報伝達の工夫はされている。 ゆったりと過ごせるスペースが足りない中で、カーテンで仕切りをしたり布団やマットを敷いて休息スペースを確保しています。	既存の空間や設備等を十分に活用しつつ、カーテンやマットなどを使って工夫し、支援に適した空間を作れるようにしていく。 バリアフリー化が必要な箇所がないか点検し、改善を検討していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか また、お子様の活動に合わせた空間になっており、必要に応じてお子様が個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	和室で休めるのはいいが、仕切りがないので音などに敏感なご利用者様は休められない。 玩具の整理などができていない時がある。お子様の活動や必要に応じた個別スペースの確保が難しい。 同じ施設の中で休息が出来る部屋がある。少し離れている点が不便と感じる。	発達支援室のスペースのみではなく、保育所や多目的スペースなど施設内を有効に活用して、適宜、必要な支援を行えるようにする。 遊びや活動及び支援に使う物品は、日々、整理整頓しておき、必要な時はいつでも提供できるようにする。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	ある程度の目標があるのはいいが、振り返る時間がない。 ミーティング、カンファレンス等では、積極的に発言があり、参加する意欲が見られる職員が多い。 常に行っています。日々の活動、支援に繋がれるよう話し合う時間を作っていると思います。	業務改善を進めるためのPDCAサイクルが適切に回せているか、開校日の午前中の時間を使って職員間で話し、日々の業務に活かせるようにする。
	6 保護者向け評価表を活用する等により、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	保護者向け評価表だけでなく、送迎時など保護者と関わる機会に意向の把握に努めている。 まだ感じられないのでわからない。	毎年度の保護者の評価結果を職員で共有し、保護者の意向等に対して、朝礼やミーティング等で話し合い、対応策を考えて業務改善につなげられるようにする。
	7 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	個別で相談などはあるが、職員全員の意見を聞く機会はまだあまり設けられていない。 ミーティングはあるが改善に繋がっているか疑問。	職員と上長の個別面談で職員の意見等を把握する機会を設けている。毎月のミーティングにおいて、職員から意見が出せる機会はあるが、発言する者が限られており、チーム全体で意見が出しやすい環境を作っていく必要がある。 出された意見に対して、具体的な改善策を考え、実行できるようにしていく。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	まだ感じられないのでわからない。	法人内において外部監事による監査等を実施し、評価結果を職員にフィードバックして業務改善につなげられるようにする。
	9 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか	常に勉強させていただいています。 外部研修などの機会は、積極的に参加してもらっている。 Slackで発信があるので興味を持つことができるが、職員数が少ないため受講は限られる。	施設内におけるOff-JT等の研修や、施設外における各テーマの研修を受講することで、職員の資質向上を図っている。 今後とも職員自らが積極的に研修に参加できるようにしていく。

		チェック項目	意見、工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点等	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	10	適切に支援プログラムが作成、公表されているか	記載なし。	2024年度中に作成、公表済みである。
	11	アセスメントを適切に行い、お子様と保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか また、作成した放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか	計画は適切に作成されていると感じる。計画に沿って統一した支援を行うことが難しい。 計画はできているが、重度のご利用者様や安全確保ばかりになり個人を分析できる機会が圧倒的に少ない。	個別支援計画書は、ケアコラボにて職員はいつでも閲覧できるようにになっており、計画に沿った支援が行えるようにしている。 日々の支援の中でアセスメントを行うためには、個別支援計画書にあるニーズや課題を把握しておく必要がある。
	12	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、お子様の支援に関わる職員が共通理解の下で、お子様の最善の利益を考慮した検討が行われているか	計画の内容の共有、説明など共通理解のもとで支援を行うよう努めている。 支援に疑問があればその場で職員に確認して見直す事ができている。申し送りで発信がある。	個別支援計画書を作成する際は、カンファレンスやケース会議を行い、児童発達支援管理責任者と支援に関わる職員が意見等を出し合えるように努めている。 日々の支援の中でも、疑問点や気になる点があれば、職員間で共有し、児童発達支援管理責任者から適宜、指導助言をもらい、支援に活かせるようにする。
	13	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察等も含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により把握しているか	日々の観察に基づくアセスメントはできているが、フォーマルなアセスメントについては十分ではないと感じる。	子どもの適応行動の状況は、日々の支援の中で観察して記録を取るようにしている。 ケアコラボにある「生命チャート」や「生活チャート」を活用してアセスメントを行えるようにしていく。
	14	放課後等デイサービス計画には、「本人支援」、「家族支援」、「(将来の進路等への)移行支援」、「地域支援・連携」のねらいと支援内容も踏まえながら、支援に必要な項目や具体的な支援内容が設定されているか	学校、他事業所との連携がとれている。ご家族の想いを汲み取る姿勢がある。 地域支援・連携のねらいや支援内容が少ない。 地域支援・連携といった点は組み込むことが難しい時がある。	個別支援計画書には、「本人支援」、「家族支援」、「(将来の進路等への)移行支援」、「地域支援・連携」の視点を踏まえて、支援内容を設定するようにしている。 「地域支援・連携」については、必要とされる具体的な支援内容を検討していく。
	15	活動プログラムの立案をチームで行っているか	特にプログラムを組んではないが、利用者の個別のニーズに合わせて活動できるよう工夫されている。	カンファレンス等で個別のニーズに合わせた活動内容を検討している。 職員間で共有し、日々の支援の中で実行できるようにしていく。
	16	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	記載なし。	活動プログラムを実施した結果を振り返り、必要な改善を行い、よりよい活動プログラムになるよう工夫していく。
	17	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか	安全確保ばかりで支援をさせてあげられないことが多い。暇を持て余すご利用者もいらっしゃる。教材が近くにあればお渡しできるが、あまり注視してあげられない。	個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、支援が行えるようにしている。 安全確保は重要だが、過度になりすぎると経験や活動の幅を狭めてしまうことにもなりかねないため、環境や状況を見極めて柔軟に対応できるようにしていく。
	18	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか	職員配置、ある程度の行動予測ができているがいざ支援時間になるとまなまなっていない事が多い。	支援開始前に朝礼を行い、職員間で支援内容や役割分担等を確認できている。 支援開始後は、職員間で声を掛け合い、環境や状況に応じて柔軟に対応できるようにしていく。
	19	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	大きな出来事は時間をかけて振り返りたいが他業務があるのであまり深く意見交換できない。	支援終了後、職員間で支援の振り返りを行い、気付いた点等を申し送りして、当日勤務していなかった職員にも共有できるようにしている。
	20	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	明らかな事故を事故報告としていないことがある。事故の線引がわからない。	ケアコラボ（介護記録）は、職員や保護者が閲覧できるものであり、日々の個別の支援についてはケアコラボに必ず記録するようにしている。 事故が発生した場合は、緊急対応チャートに従い行動している。事故レベルを基準として、レベル2以上を事故報告書を作成するようにしている。事故レベルの判断がつかない時は、上長に報告して指示を仰ぐようにする。
	21	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	職員間で意見交換ができている。難しかった事は無理に行わず、個々のレベルに合わせた支援へ見直させている。	定期的にカンファレンスを行い、職員間で意見を出し合い、モニタリングに活かしている。
	22	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか	イベントなどで高齢者、保育所児童等との交流ができるのが良い。 地域交流の活動が少ない。 地域交流の活動を設定することが難しく十分にできていない。	施設内において、高齢者や障害者、外国人など多様な人々との交流ができるようにしている。 地域交流については、特別な活動等を設定することは難しいが、公園や公共施設等に出かけた際に、地域住民との交流ができるように努めている。
	23	お子様が自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるために支援を行っているか	余裕がある時はゆっくりと決定や考える時間を設けることができる。	常に、好きな遊びや活動を自分で選択できるように支援している。自己決定が難しい利用者に対しては、イラストや写真カード、具体物などを用いて、自ら選択できるような工夫をしている。

		チェック項目	意見、工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点等	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議等にそのお子様の状況をよく理解した者が参画しているか	記載なし。	ケース会議が必要な場合は、利用者の状況をよく理解した職員が参画している。
	25	地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか	学校の先生や多事業所の職員が視察をして意見交換ができています。	日々の送迎時や電話などで、学校や他事業所等と連携を図っている。
	26	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、お子様の下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	天候による学校からの早帰り等が伝わらないことがあった。	学校より連絡専用アプリ等を用いて、行事計画や下校時刻の確認等の連絡が受けられるようにしている。 事業所からは毎月の利用予定表を学校へ送付し、放課後等デイサービスの利用状況の共有ができています。
	27	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	記載なし。	特定の利用者において、保育所や児童発達支援事業所等と情報共有を行い、日々の支援に活用できている。
	28	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか	記載なし。	施設内において、共生型生活介護のデイサービスに移行した利用者については、放課後等デイサービスでの支援内容等の情報が共有できている。
	29	地域の児童発達支援センター等の専門機関と連携を図り、必要に応じて助言や研修を受けているか	リーダーが研修や意見交換をしてくださる。	児童発達支援センターとは、必要に応じて情報共有を行い、助言を受けられている。児童発達支援センターによる研修が行われる場合は参加している。
	30	放課後等児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	施設内にある保育所児童との遊びを通して交流を持っている。 地域の公園や児童館に遊びに行った時に、少しは交流ができています。 外出時も特に交流はない。	公園や児童館や公民館等にある遊べるスペースに出かけた際は、障害のない子どもと交流する機会がある。
	31	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	記載なし。	地域自立支援協議会の児童部会に参画しており、研修等へ積極的に参加できている。
	32	日頃からお子様の状況を保護者と伝え合い、お子様の発達の状況や課題について共通理解を持っているか	多忙なご家族とも交流できる機会があればいいと思う。	送迎時、日々の様子を伝えるとともに、家庭での様子を聞き、お互いに発達の状況や課題を共有できるようにしている。
	33	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等が参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか	キャンセル、体調不良時のご様子をお電話でお伺いしている。	モニタリング等で必要に応じて、家庭で実践できる支援方法を紹介したり、研修の案内をするなど、情報提供を行なっている。 キャンセルの連絡を受けた際は、体調等の様子を聞き、必要な相談援助を行なっている。
保護者への説明等	34	運営規定、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	記載なし。	契約時に必ず説明を行い、理解を得られるようにしている。
	35	放課後等デイサービス計画に基づき、支援内容の説明を行い、保護者から同意を得ているか	モニタリング、送迎時に行っている。	アセスメントを行い、個別支援計画書を作成し、保護者に説明して同意を得られている。
	36	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか	モニタリングにて行っている。即時に相談する機会ができれば良い。	送迎時やモニタリングにおいて、子育ての悩み等の相談があれば、必要な助言や支援を行なっている。
	37	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	記載なし。	放課後等デイサービス事業所単体では、保護者会やきょうだい同士で交流する機会は特段、設けていない。 施設全体において夏祭りを開催し、利用者と家族に参加してもらい、保護者やきょうだい同士で交流できる機会がある。
	38	お子様や保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、お子様や保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	優先度の高い事はすぐに行っている。	苦情があった場合は、職員間で共有するとともに、上長に報告して、迅速にかつ適切に対応している。
	39	定期的に通信等を発行することや、ホームページ等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をお子様や保護者に対して発信しているか	記載なし。	日々の活動やレクリエーションの様子は、ケアコラボにおいて、文章のみならず写真や動画を添付することで視覚的に伝わるようにしている。
	40	個人情報の取り扱いに十分注意しているか	記載なし。	個人情報の取扱いに関する同意書や内規に基づき、個人情報を適切に取り扱えるようにしている。
	41	障害のあるお子様や保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	記載なし。	発話がない利用者に対しては、イラストや写真カード、マカトンサイン等を活用するなど意思疎通や情報伝達ができるよう配慮している。
	42	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか	毎年、施設全体で夏祭りや餅つきなど開催して地域住民が参加できる行事を行っている。	施設全体で実施する夏祭り等の行事や毎月のごはんの日に地域住民を招待して、交流や意見交換を行なっている。
	43	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	事故報告書を書くか書かないかの線引が職員によって違う。	各マニュアルを職員や家族に周知している。 事故が発生した場合は、緊急対応チャートに従い行動している。事故レベルを基準として、レベル2以上を事故報告書を作成するようにしている。事故レベルの判断がつかない時は、上長に報告して指示を仰ぐようにする。 施設で行う避難訓練に参加している。

		チェック項目	意見、工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点等	課題や改善すべき点
非常時等の対応	44	業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	記載なし。	業務継続計画（BCP）を策定しており、研修等で周知するとともに、訓練を実施している。
	45	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のお子様の状況を確認しているか また、アレルギーのあるお子様について、医師の指示書に基づく対応がされているか	久しぶりの業務につく職員に重大な報告ができていない事があった。その場にいる職員のための連絡は危険。	契約時等に服薬やてんかん発作等の有無を必ず確認するようにしており、薬剤情報提供書や医師の指示書等の提出を求めている。 ケアコラボの特記事項やプロフィールに服薬やてんかん発作等の情報が記載しており、全職員が把握して必要な対応ができるようにする。
	46	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか また、家族等の連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容を家族等へ周知しているか	記載なし。	安全計画を策定しており、研修等で周知するとともに、訓練等を実施している。 日々の業務においても、危険箇所等を点検して改善ができるようにする。
	47	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか	記載なし。	ヒヤリハットがあった場合は、ケアコラボに状況や原因、大雨作等を記録して共有し、事故の未然防止に努めている。
	48	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	記載なし。	施設全体で年2回、虐待防止や身体拘束についての研修を実施しており、全職員が受講している。 日々の支援において、もし虐待につながるような言動があれば職員間で気づき合い、改善して、虐待を未然に防止できるようにする。
	49	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、お子様や保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	記載なし。	施設全体で年2回、虐待防止や身体拘束についての研修を実施しており、全職員が受講している。 身体拘束について利用者や保護者に事前に十分に説明し了解を得るとともに、職員が3つの条件（切迫性、非代替性、一時性）をよく理解し、緊急やむを得ない場合に身体拘束を行うかを判断できるようにする。

○事業所名	子どもデイサービスセンター杜の家なりた		
○保護者評価実施期間	2025年2月25日 ～ 2025年3月24日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37 (回答者数)	19
○従業者評価実施期間	2025年2月25日 ～ 2025年3月24日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同じ敷地内で特別養護老人ホーム等の複数の福祉サービスを運営しており複数の建物や部屋があるため、遊びや活動の場が十分確保されている。	利用児童のやりたい活動や、児童の特性に合わせて利用するスペースを使い分けて、過ごしやすい環境を整備するように心がけている。	クールダウンできるスペースがないため、カーテンを設置するなどして、クールダウンスペースが確保できるよう検討する。
2	同じ敷地内で特別養護老人ホーム等の複数の福祉サービスを運営しており、世代を超えた交流の機会がある。	保育所児童とは、戸外遊びや制作活動などを一緒にやることで交流ができています。高齢者とは、日常的に会いに行くことはもとより、夏祭りなど季節イベントを合同で行うなどして交流の機会がある。	調理レクリエーションなど合同で行うレクリエーションを企画し、時間をかけてじっくり交流できる機会を増やしていく。
3	職員は、保育士や介護福祉士等の資格を取得していることで、児童の発達や身体介助等について専門性の高いケアが行えている。	Off-JTを行うなど、職員の専門性の維持と向上ができるよう研修の機会の確保に努めている。	感覚過敏や強度行動障害など障害特性についての知識や支援方法が習得できる研修を実施することで、より専門性の高い支援が行えるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	敷地内が広いがゆえに、児童が分かれてしまうと見守りがしづらい。	少数の職員で複数の児童を見守りしている時、児童が分かれてしまうと、所在不明や怪我などの事故が発生する可能性が高まる。	見守りは放課後等デイサービスの職員のみならず、無線を使って他部署の職員に発信して、施設全体で所在確認等ができるようにしていく。
2	地域交流や施設外において障害のない児童と交流する機会が少ない。	地域の公園や児童館に遊びに行き交流できる機会はあるが限られている。	外部団体が企画する遊びの場に積極的に参加するなど、交流できる機会を増やしていく。
3	保護者向けの情報交換や研修の機会は設けられていない。	モニタリング面談等において、家庭で気になることや困りごとなどを把握して個別の支援は行なえているが、保護者向けの情報交換会や研修会等は開催していない。	障害特性や構造化など支援方法等の共通するテーマがあれば、外部機関とも連携して保護者向けの情報交換会や研修会等を検討していく。